



伝音難聴の主な原因

外耳の病気によるもの	耳垢栓塞 外耳道異物 <ul style="list-style-type: none"> ●原因/耳あかが詰まったものを耳垢栓塞、虫や小さな物などが詰まったのを外耳道異物という。 ●治療/詰まった耳あか、異物を早めに取り除く。ただし、家庭や園で無理に取ろうとするとかえって危険なので、耳鼻咽喉科で処置してもらうこと。
	外耳炎 <ul style="list-style-type: none"> ●原因・症状/耳そうじのときに、外耳を傷つけたり、外耳道に湿しんがで、かゆくていじったりすることで、細菌に感染して起きる。 ●治療/炎症の起きている場所に薬を塗って治療する。かゆみがひどいときは、かゆみ止めの薬を服用することもある。
中耳の病気によるもの	滲出性中耳炎 <ul style="list-style-type: none"> ●原因/中耳内に分泌液(うみではない)がたまる。かぜをひいたときや、急性中耳炎を繰り返す、アデノイド(咽頭扁桃)や扁桃腺(口蓋扁桃)が大きい、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎で慢性的に鼻が悪い人に起きやすい。 ●症状/難聴や耳の閉塞感、耳鳴りなど。発熱や痛みはほとんどない。特に子どもの場合は自覚症状がなく、周囲も気づきにくい。よく泣く、耳をいじる、イライラする、名まえを呼んでも返事をしない、聞き返すといった状態が見られたら注意が必要。 ●治療/鼓膜切開で液を抜いてようすを見る。鼻の慢性疾患がある場合は、その治療もする。治りにくいときは、鼓室(中耳の空洞の部分)内にチューブを通して、中耳の換気を促すようにする。
	急性中耳炎 慢性中耳炎 <ul style="list-style-type: none"> ●原因・症状/細菌が耳管を通して中耳に侵入して炎症が起き、うみがたまる。原因の多くはかぜや副鼻腔炎などの鼻の疾患。高熱や激しい痛み、鼓膜の充血、難聴や閉塞感を伴い、たまつたうみが鼓膜を破って出てくる(耳だれ)こともある。 ●治療/うみがたまっていたり、完全に排出されていないときは、鼓膜切開で除去する。ほかに抗生物質などを服用する。鼻炎などの症状があるときは、その治療も行う。
	耳管狭窄症 <ul style="list-style-type: none"> ●原因・症状/鼻炎、副鼻腔炎、アデノイド肥大、鼻咽腔炎などが原因で起きる。耳管から中耳に十分な空気が送り込めないため、鼓膜の動きが悪くなり、耳の閉塞感があったり、難聴状態になる。 ●治療/鼻、のどの炎症の治療を行い、鼻から中耳内に空気を送る治療(耳管通気治療)をする。

子どもの「聞こえ」が悪くなる原因

耳の「聞こえ」が悪くなる、いわゆる難聴の原因はさまざまですが、感音難聴と伝音難聴の2つに大きく分けられます。感音難聴は、両側性(両耳が難聴の状態)の場合、先天的なものも多く、その半分は遺伝によるものです。そのほかはお産の際の障害が主な原因です。また、片側だけの感音難聴では、ムンプス(おたふくかぜ) 難聴がよく知られていま

す。一方、伝音難聴については、外耳や中耳の疾病など、さまざまな原因があります。主な原因については左の表を見てください。なお、伝音難聴は、薬による治療や手術によって治すことができますが、感音難聴はほとんどの場合、聴覚を戻す治療は困難といわれています。しかし最近では、人工内耳手術が行われることもあります。

好きな音楽や、テレビのCMソングなどに反応して近づいてくるか

声のみの指示に従えるか

発達にそって習得することばは増えているか

ことばの模倣があるか



大きな音に驚いたり、目を覚ましたりするか

おもちゃの音に振り向くか

周囲の呼びかけに振り向くか

音楽に合わせて踊れるか

低年齢のうちには、月齢によって音が聞こえたとときの反応も異なるので、発達などを考慮して左の項目をチェックしましょう。また、ふだんからあそびの感覚で、ささやくように声をかけて反応を見ることが、耳の状態をチェックするという方法もあります。

子どもの「聞こえ」のチェック法